集え同志！

# わが社のサークル活動

コロナ禍によりリモートワークなどが増え、社員同士のコミュニケーションが希薄になりつつある中、企業内サークルがにわかに注目を集めている。目的は社員の健康増進や地域社会への貢献などさまざまだが、部署を超えたコミュニケーションにより、社内の人脈づくりやモチベーションアップ、さらにはサークルを通じた雇用や新規案件獲得にもつながる例もあるという。東北各県からサークル活動を行う企業を紹介する。

# ボランティアサークル『ＡＭＥんＶＯ』（アメンボ）

## 青森三菱電機機器販売（青森市）

## 地域社会への貢献を目指す

雪片付け作業する様子

青森県や宮城県、岩手県で電機・設備機器の販売のほか、工事の設計・施工などを手掛ける青森三菱電機機器販売は、今年創立76周年を迎える。創業以来、地域とのつながりを大切にするとともに地域社会への貢献を目指している。その活動のひとつとして、同社にはボランティアサークルがある。

これまで、個々に行ってきたボランティア活動を、サークル的に楽しくやっていこうという社員たちの自発的な発言から、1997年４月の同社創立50周年を契機に、関連会社シンクの社員と共に「ＡＭＥんＶＯ」（アメンボ）というボランティアサークルが誕生した。現在の会員数は、全社員に当たる約140名。サークル名は社員公募で決まり、社名の英文表示（ＡＯＭＯＲＩ ＭＩＴＳＵＢＩＳＨＩ ＥＬＥＣＴＲＩＣ ＳＡＬＥＳ）と、ボランティア（ＶＯＬＵＮＴＥＥＲ）の頭文字から名付けられたという。

ＡＭＥんＶＯの活動のメーンとなるのが、ひとり暮らし高齢者世帯の屋根の雪下ろし作業だ。青森市は、国内はもとより世界でも有数の多雪都市であり、市全域が特別豪雪地帯に指定されている。積雪の増加により、高齢者世帯では日常生活が困難になる場合があり、深刻な影響を及ぼしている。

今年１月は、今季最強寒波の影響による荒天で厳しい寒さが続き、31日には積雪が１ｍに達した。ＡＭＥんＶＯは、青森市社会福祉協議会からの出動依頼を受け、青森市筒井桜川に住む障害のある方のもとへと向かった。昨年も同地で活動したこともあり、社員たちは手際よく屋根の雪下ろし作業や除雪作業を行った。

同社の鳴海満取締役総務部長は「場所によっては雪を捨てる場所がなく、少し離れた場所まで捨てに行く必要がある」と苦労を語る。昨年は、ここ数年で一番の積雪があり、昼過ぎまでかかったという。しかし、今年は活動日が天候に恵まれ、雪が柔らかいこともあり、作業は順調に進んだ。鳴海部長は「雪片付けボランティアをして、その家に住んでいる方から感謝の言葉をもらう時が嬉しい。雪片付けは危険が伴うので大変だが、安全に配慮して、来年も取り組みたい」と話す。この活動は、過去に「青森県ふれあい活動功労者」として表彰されている。

ＡＭＥんＶＯは雪下ろし作業以外も活動しており、毎年４月に開催されるあおもり桜マラソンへ参加しているほか、過去には、弘前市を流れる土淵川の河川敷清掃や青森市の植林事業への協力、障害者のスポーツ大会での車椅子やテーブルなどの物品運搬などを行っている。

現在、活動の中心は青森市内だけとなっているが、もっと幅を広げて県内外の災害などにも派遣できるようなサークルにできればとこれからの活動に意欲を見せる。

佐々木組（岩手県一関市）

EAST RUNNING CLUB

佐々木代表（中央・ゼッケンと襷）、阿部さん（手前左）、軍司さん（手前右）

# 世代、部署の垣根を超えた交流の機会に

「世代、部署を問わずコミュニケーションできる」とランニングの魅力を伝えてくれたのは、ＥＡＳＴ ＲＵＮＮＩＮＧ　ＣＬＵＢ事務局長の松島俊一営業本部営業部課長、企画担当の阿部亜希子建築部係長、軍司美穂総務部係長。八幡平市で毎年９月に開催する「あっぴリレーマラソン」に出場するなど継続的に活動している。

主要メンバーは20～40代の社員15人程度。「あっぴリレーマラソン2019」への出場をきっかけに活動を開始した。その後はコロナ禍となり自粛したが、昨年度に活動を再開し、同マラソンに２回目の出場を果たした。

このマラソンは１周２km×21周＋195mを襷（たすき）でつなぎ、フルマラソンと同距離の42.195kmをチームで団結して走る大会で、佐々木一徳代表取締役社長も参加。Ｔシャツを揃え、声を掛け合って見事完走した。遠方の現場担当や盛岡支店の社員なども駆けつけ、苦しくも楽しい時間を共有。応援団も集まりにぎやかでリフレッシュできた１日になったという。阿部さんは「結果にこだわらず気楽に走っている」、軍司さんは「大人の遠足のようなもの」と笑顔を見せる。松島さんは「交流が増え仕事でも声をかけやすくなる」と業務上のメリットも話す。

最近では、６月に宮城県七ヶ宿町で行われた、恐竜の着ぐるみを着て全力疾走しタイムを競うイベント「ティラノサウルスレース」に女性メンバーが出場。アメリカ発祥で近年、日本でも盛んに行われている同イベントに阿部さんと軍司さんが「面白そう！」と食いつき、他のメンバーにも声をかけた。松島さんは「２人は面白そうなものを見つけるのが本当に上手い」と笑う。

また、企業対抗によりオンラインで１カ月間の歩数や走行距離を競うイベント「さつきラン＆ウォーク」にも参加。歩数や距離を確認し合いお互いに刺激を受けるため歩くきっかけに。同社の健康経営にも貢献している。

取材中、ボケとツッコミが炸裂するトークで終始明るい皆さん。「走っている姿を見たときは声をかけてくださいね」と話していた。

声援に応えながら走る松島さん

ティラノサウルスを着た女性メンバー

# 飾山囃子同好会（おやまばやし）　瀧神巧業（秋田県仙北市）

## 伝統ある「角館のお祭り」お囃子で社員・地域の交流に一役

毎年9月に行われる「角館祭りのやま行事」は、秋田県仙北市角館町に約400年間伝わる伝統の祭りで、多くの町民が毎年心待ちにしている。各丁内が武者人形などを載せた曳山（ひきやま）を運行し、参拝後の曳山が通りで出会うと、通行の優先権を巡って交渉。決裂すると曳山同士を激しくぶつけ合う「やまぶっつけ」で雌雄を決する。曳山運行の際には飾山囃子（おやまばやし）が演奏され、華やかに祭りを彩る。

角館に本社を構える瀧神巧業は昨年7月、飾山囃子同好会を立ち上げ、メンバー7人が週に1度練習を重ねている。お囃子を演奏できる社員は多くいるが、祭りの際には曳山を引く場合がほとんどで、「演奏の場があれば社員同士の交流になり、会社と地域を盛り上げられるのでは」とのことで発足した。佐藤美紀さんは「サークルの中で、実際のお祭りで演奏しているのは私ひとり。普段ほかのメンバーは演奏の機会がないし、違う丁内同士、社員同士で合奏するのが楽しい」と魅力を語る。

本社２階にある音楽室。ギターやドラムが並ぶ

使用する楽器は5つあり、全員がどれかの経験者だが、習得したい楽器に各自挑戦中。佐藤敦也経営戦略部長と佐藤美紀さんが全般を教えている。笛を練習中の布谷優綺さんは「指が思うように動かないし、音色の出し方もまだまだ。太鼓は叩けるが、全然違う」と笑う。

ゆくゆくは慰問などのボランティア活動や、社内の経営計画発表会や忘年会、結婚式の余興などでも演奏したいとのこと。佐藤部長は「採用の一助になれば、との思いもあるし、異なる部署のメンバーが集まっているので、横のつながりが強まるのも期待している」とする。

練習場所は本社2階の音楽室。同社は2021年に、法務局だった建物を改修して移転しており、もともと防音機能があった機械室から不要な設備類を撤去して整備した。音楽やダンスのサークルも音楽室で活動しているほか、野球部など運動系のサークルもあり、のびのびとした社風づくりに一役買っている。

# スポーツ愛好会『ＵＹＯＵ ｐｒｉｄｅ』

## 共に汗を流し、楽しく健康に

## 羽陽建設（山形県上山市）

サッカー後の記念撮影

山形県上山市の羽陽建設は、2021年に健康経営優良法人に認定されたことから、定期的な健康講座の開催や年２回運動イベントを行う日を「健康ＤＡＹ」として定め、健康促進に取り組んでいる。今年５月に、その活動をさらにパワーアップし健康的な体づくりと社員同士の交流を目的としたスポーツ愛好会を、社名にちなんだ「ＵＹＯＵ ｐｒｉｄｅ（仮称）」と名付け結成した。約50名の社員全員が所属し、各々が興味のある活動ごとに自由に参加することができる。

「ＵＹＯＵ ｐｒｉｄｅ（仮称）」には、運動を通して社員同士の信頼関係を深めることで、若手社員がベテラン社員から技術を習得し、「ｐｒｉｄｅ（誇り）」が込められた名前の通りより良い施工を目指す気持ちをもって仕事に取り組んでほしいという意味を込めた。

これまでの健康ＤＡＹの活動では、上山市の蔵王高原坊平で往復約４㎞の山登りや森林の中でのヨガに取り組んでおり、地元・上山市の「かみのやま健康ポイント」事業にも参加している。これは歩数や健康教室の開催などによりポイントを獲得し、獲得ポイントを商品券と交換することができる市の事業で、上山市民を対象に行っている。会社では他市在住の社員に対しても補助を行い、歩数計の費用負担や達成賞品を準備することで社員全員が意欲的に参加できるよう活動を支援している。

実際、山登りなどに参加した社員の髙橋早苗さんは「ガイドの方からいつもなら見逃してしまう草花の知識を得られて面白い」と話す。また歩数計を持ったことをきっかけに、昼休みは30分程度ウォーキングする習慣がついた。

また、同じく社員の荒井義貴さんは、「今ではちょっとしたところには歩いて行くようになった」と、自身の運動に対してのモチベーションの変化を語る。

共に汗を流し、おいしいお弁当を食べることにより、「部署の違いなどでなかなか交流の機会がない人ともコミュニケーションの場ができたことが良い効果のひとつ」と常務取締役の三澤忠彦さんは感じており、活動を通して日常業務でも声を掛けやすい雰囲気が生まれているようだ。

これから本格的に始動するスポーツ愛好会「ＵＹＯＵ ｐｒｉｄｅ（仮称）」は、社員の健康を守るため継続的な活動を目指していく。

森の中のヨガでリラックス

ゲーム形式でプレー

# 清水建設東北支店フットサル部

## 清水建設東北支店（仙台市）

# 喜び、楽しみ、団結力高める

清水建設東北支店は、隔週水曜日にメンバーを集い、サッカーやフットサルに汗を流している。チーム名は「清水建設東北支店フットサル部」。清水康次郎支店長が2020年に現職に就任した時期に部を設立させた。部員は、所属部署の異なる約100名が登録されており、20代～60代まで幅広い年齢層が集う。社内に限らず、取引先企業も参加している。また、採用内定者や新入社員に対しても参加を呼び掛け、社内の雰囲気を感じ取ってもらうことを目的に一緒に活動することもある。

コロナ禍前に設立されたフットサル部は、「会社内で関わり合いが少ない部署間や取引先企業とのコミュニケーションを深め、団結力を高めてほしい」といった思いから設立。

取材当日は約30名が参加し、清水建設オリジナルユニフォームを着用してフットサルに励んでいた。男女混合となり、年代や経験者人数が均等になるようグループ分けを行い、ゲーム方式でプレー。出場機会を均等に与えるためにゼッケン番号順に選手を交代するなどして工夫を凝らしていた。清水支店長が中心となって活動を進行させ、参加者全員が効率的にポジションを回れるように元気に指示を出す。ゴールを決めた時やいいプレーが出た時は、喜び合って一緒に楽しむ姿が何度も見られた。日によっては取引先との試合や経験者のみの試合といった、さまざまな形でも活動している。

清水支店長

「一緒に汗をかきながら運動することで、普段、会社内で関わりがない人との接点が増え、プライベートな雰囲気を掴めて楽しい」と東北支店営業部の荻野敦也さん。清水支店長は参加社員に対し、「このサークルを今後も受け継いでほしい」と笑いながら話していた。活動終了後は、決まって参加者全員で記念撮影を行っており、団結力の強さが伺えた。

活動後の記念撮影

# バスケットボールチーム『ＮＡＩＴＯ’Ｓ』

## 交流は垣根を越え、新規ビジネスチャンスへ

内藤工業所（福島県郡山市）

「ＨＡＰＰＹ　ＬＩＦＥ」のビジョンを掲げる内藤工業所は、社員や関連会社なども含め関わるみんなが幸せな人生を送れるよう、設備工事を通じたサービス提供に努めている。バスケットボールチーム「ＮＡＩＴＯ’Ｓ」の活動においてもこのビジョンを共有。社内外の垣根を越えたコミュニケーションで新規雇用やビジネスチャンスをもたらし、チームの成長とともに企業の発展にも寄与している。

1945年に福島県郡山市で創業開始した同社は、冷暖房・衛生設備など総合設備業の老舗として県内外で活躍している。バスケチームの発足は2020年10月、渡辺光成執行役員兼ゼネメン事業部部長（キャプテン）と工事協力会社である安藤設備の安藤雄太郎代表取締役（監督）の２人が「久しぶりにバスケしようか」という声で始まった。当初は、社内や仕事仲間のバスケ好きが集まり練習していたが、会社からサポートを受けることが決まり、未経験者や協力会社社員も加わった。さらには他チームとの合併を経て現在は男女混合の25人程度に拡大した。

チーム目標は「ドリームマッチで打倒、福島ファイヤーボンズ」。Ｂ２リーグで活躍中の県内プロバスケットボールからの勝利を目指し、郡山市立緑ケ丘中学校体育館を拠点として、月・火・木・日曜日の19時から21時まで練習に打ち込む。郡山市が開催するバスケットボールリーグにチーム登録しているが、新型コロナウイルス感染症の影響でこれまでの大会は中止となっていた。しかし、ようやく今年から再開することが決まり、練習成果の発揮へ力が入る。

安藤監督は「バスケがきっかけで内藤工業所へ入社したり、仕事依頼を受けた人もいる」と話し、チームの存在について「ＮＡＩＴＯ’Ｓに入れば仕事も上手くいく」と語る。渡辺キャプテンは「ＮＡＩＴＯ’Ｓがきっかけで新規取引を結んだこともある。横のつながりがどんどん広がっている」と感じ「会社からはユニフォームの支給などサポートを受けている。引き続き協力会社の拡大に結び付けていきたい」と仕事への熱意を燃やす。